



2024 年度 昭和大学 [I 期]

【 講 評 】

①は4択の文法・語彙問題 15 問。レベルは標準。昨今の大学入試ではこのタイプの文法問題が著しく減少しているが、そのような中で 15 問の出題というのは、昭和大学が正確な文法・語彙の知識を重視していることの現れだろう。ここでは 8 割以上の正答が望ましい。多義語の問題である 3、4、13 はやや難しい。

②は「植物の体内時計」に関する長文問題。入試で頻出のテーマで比較的読みやすく設問のレベルも標準的だが、段落整序問題は苦手な受験生が多く、差のつく問題となっただろう。

③は「正直なプラセボ」に関する長文問題。医系長文だが、基本的な医系単語を習得済であれば読みやすい文章である。2 題の長文はいずれも昨年度よりやや易化した。ただし 7 の説明問題は字数が増えたため、やや負担増といえる。

【 解 答 ・ 解 説 】

①

1. B. How

「インド経済は 30 年後にどのようになっていると思いますか」

- ・ do you think + How will India's economy be in 30years? How が文頭に出る語順がポイント。
- ・ Do you know How India's economy will be in 30years?との区別に注意。

2. D. which

「私たちは富士山の入り口として有名な富士吉田に引っ越します」

- ・ 空所には主語の働きをする関係代名詞が入る。空所の後ろに、いわゆる不完全文があることに着目する。

3. A. earned

「あなたはこの数週間本当によく働きましたね。1 日休暇を取るのに十分な働きだったと思います」

- ・ earn O 「O にふさわしいだけの働きをする」

4. C. system

「食べ過ぎは身体によくないと一般的に言われる」

- ・ [the, one's] system 「身体」

5. C. knows better

「息子は何の準備もせずに富士山に登るほど愚かではない」

- ・ know better than to do 「…するほど愚かではない」

6. A. is to be reduced

「都市の渋滞を緩和するつもりなら、効率的な公共交通機関を開発すべきである」

- ・ be to do 「…するつもりなら」 if 節中の be to は通例「意思 (…するつもり、…したい)」を表す。

7. C. covered

「富士山は頂上が雪で覆われる冬が最も美しく見える」

- ・付帯状況の with
- ・be covered with 「…で覆われている」

8. D. much too kind

「マルコはたいへん思いやりのある男だ。彼は本当にすごくやさしいのだ」

- ・much too+形容詞・副詞「あまりにも…」 形容詞の原級を much で修飾することはできないので、C の too much kind は誤り。

9. B. believed

「会議室にもっと椅子があると思っていた」

- ・believe O to do 「O が…するのを信じる」 to 不定詞の意味上の主語の位置に、there are more chairs...の there が置かれた形。

10. D. make do with

「新しいスマホを買う余裕がない。今のところ、古い物で間に合わせるしかないだろう」

- ・make do with 「(不十分だが手に入るもので)間に合わせる」

11. C. preferable to

「どんなものであれ、私たちが今使っている時代遅れのやり方よりはマシだろう」

- ・be preferable to 「…より好ましい」

12. B. falls

「今年の私の誕生日は火曜日だ」

- ・fall on 「(記念日などが) (曜日に) あたる」

13. D. oyster

「試験が終わったので、自由になんでもできる」

- ・The world is my oyster. 「自由になんでもできる」という意味の慣用的表現。ここでの oyster は「思うままにできるもの」の意味。

14. C. the younger

「私には二人の兄弟がいるが、ニックは年下の方だ」

- ・the+比較級+of the two 「二人 (二つ) のうちで…な方」

15. B. that

「私の大好きなアメリカの映画スターが結婚するというニュースがあった」

- ・同格を導く接続詞 that

2

1. [D]-[F]-[C]-[G]-[E]

- ・[D]の1文目にある this biological pacemaker に着目し、これが[B]の最終文にある this pacemaker を受けていると判断する。また、ここで肩書とフルネーム(French geophysicist Jean-Jacques d'Ortous de Mairn)が述べられているため、Mairan は[D]が初出だとわかる。→[F]では、[D]で述べられた実験内容の詳細が説明されている。→[C]の1文目の de Mairan's experiment は[F]の実験を指し、それに続けて Mairan 以前の説と、それに対する Mairan の反証実験が紹介されている。→[G]の1文目は「天才的な新しい手法が行われた」という意味。これは、[C]の「植物を日の当たる場所に置いて、葉の動きを観察する実験」に続いて、「植物を真っ暗

な場所に置いて、葉の動きを観察する」という新しい実験手法を指している。→[E]の1文目は、これまでの内容を受け「それは革命的な発見だった」とまとめ、続けてその詳細が説明されている。

2.

(I) D. include

・空所を含む直前の文で、体内時計が睡眠パターン以外もコントロールすると述べられているため、空所に、「…を含む」の意味の **include** を入れると、空所を含む文が「これらには、飲食の好ましい時間帯、気分や感情…が含まれる」となって文脈に合う。

(II) D. coincidence

・ **It is no coincidence that SV** 「…なのは偶然の一致ではない」

(III) B. due to

・ **due to** 「…のために」を入れると、「このペースメーカーがコントロールする重大な新陳代謝、心臓血管、体温、ホルモンプロセスなどの急激な変動のために、誕生や死でさえ体内時計を実証している」となって文脈に合う。

3.

(a) D. falsified

・下線部を含む文は「その仮定はデ・マイランによって打ち砕かれた」という意味。**falsify** は「(理論などの) 誤りを立証する」の意味なので、これを入れると「その仮定はデ・マイランによって誤りが立証された」という意味になり、最も近いものだとわかる。

(b) A. obedient

・ **slave** は一般的に「奴隷」の意味だが、そこから「言いなりになる人、…に依存する者」のような名詞、あるいは「…に隷属して」の意味の形容詞としても用いられる。本文では「…太陽の周期に依存していない」の意味であるため、「従順な」の意味の **obedient** が最も近い意味となる。

(c) B. fascinated

・ **intrigued** は「興味をそそられた」の意味なので、「魅了された」の意味の **fascinated** が最も近い意味となる。

(d) B. immersing

・ **plunge** は「投げ込む、(ある状態に) 陥れる」の意味なので、「完全に浸す、突っ込む」の **immerse** の現在分詞 **immersing** が最も近い意味となる。

3

1.

(I) B. fake

・空所に「偽の」の意味の **fake** を入れると、空所を含む文は「それが偽薬、つまり有効成分のない物とわかっていた」という意味になり文脈に合う。

(II) B. bias

・空所に「先入観」の意味の **bias** を入れると、空所を含む文は「実験データの評価を行う科学者も(どちらが本物の薬で、どちらが偽薬なのか) 知らされないため、その実験結果はより直接的な比較ができ、また先入観も入りにくい」という意味になり文脈に合う。

(III) D. cousins

・ **cousin** は「親戚、いとこ」の意味で用いられることが多いが、ここでは「同系統のもの、対応するもの」の意味で用いられている。この意味では、通例複数形になる。

2.

(ア) to

・ be addicted to 「…に中毒になる」

(イ) in

・ in advance 「前もって」

(ウ) with

・ associate A with B 「A と B を関連づける」

(エ) in

・ participate in 「…に参加する」

(オ) that

・ understanding に対する同格節を導く接続詞

3. 「プラセボを効果的にするための秘匿の重要性について、科学者たちがこれまで信じてきたすべてをふまえると、このような正直なプラセボの錠剤は痛み、疲労、頭痛やその他の症状を緩和するはずはないのだ。しかし、相当数に上る症例において、それは効力を発揮した」

・ based on 「…に基づいて」

・ significant 「かなりの」

・ they do は these honest placebo pills reduce pain, fatigue, headache, or other symptoms を表す。

4. 2 番目 : unexpected 4 番目 : has 8 番目 : interested

・ the unexpected effect has many medical experts interested. 「その予想外の効果によって、多くの医療従事者が興味を抱くようになった」

5. fluctuate → fluctuating

・ attribute A to B 「A の原因が B にあるとする」 B には名詞・動名詞が入る。

6. 「投与する薬が本物か偽薬かを患者に知らせないこと」

・ keep someone in the dark 「(人に) …を隠しておく」

7. 「3 日間、鎮痛剤であるオピオイドを投与する前に、薬効成分を含まないと知らされているカルダモンの香りを嗅ぎ、同じく偽薬とわかっている大豆オイルのカプセルを飲んだ。これは脳が偽薬の摂取とオピオイドによる痛みの緩和を関連づけるよう訓練するためである。4 日目以降はオピオイドの投与をせず、香りとはカプセルだけで鎮痛効果が得られた。」 (159 字)

・ [3] を指示の字数に合わせてまとめる。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>